今週
の
み
こ
と
ば

「初めに、神が天と地を創造した」

(創世記1章1節～3章1節)

「はじめに神が天と地を創造された。」(1:1)

(ヨハネの福音書1章1節～14節)

「初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」(1:1)

今日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

◎今日、科学の進歩により宇宙の創造について解明しようと模索されています。しかしその大部分は進化論的考え方が中心です。しかし、創造論が大切なのです。

◎創世記1章1～2章4節までの主題は「天地創造」です。私たちは「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず」と使徒信条を告白しています。私たちの信じている神様は天地万物を創造された御方です。この「創造した」(ヘブル語バーラー)の言語は「神様」の創造行為だけに用いられている言葉です。その時の状況は「地は形がなく、何もなかった。やみが大いなる水の上にあり、神の霊は水の上を動いていた」(2)。神様は無秩序な混沌状態に対し、創造の御業を成されたのです。しかも死と無の状態にあるような現実にも神の霊は動いていたのです。私たちは現実の混沌とした姿ばかりを見て失望落胆しがちですが、神の霊の働きは変わらず、神様は創造の働きを行われる御方であることを心に留め、その神様を信じ続けたい。「神が『光よ。あれ。』と仰せられた。すると光ができた。」(3)。「わたしの口から出るわたしのことばも、むなしく、わたしのところに帰っては来ない。必ず、わたしの望むことを成し遂げ、わたしの言い送った事を成功させる」(イザヤ55:11)とあります。神様は語られたことを実現される御方です。人間の状態に左右されることなくご自身の計画を成就されるのです。ですから失望しないで神様の御業を待ち望んでいきたい。「夕があり、朝があった。第一日。」(5)。一日が日没で始まるのです(レビ23:32)。これによって私たちを「闇から光りへ」向かわせ、希望を与えられます。更に「神はこのように、人をご自身のかたちに創造された。神のかたちに彼を創造し、男と女とに彼らを創造された」(27)のです。神様はすべての動植物を創造された後に「人」を創造されたのです。これは「人」が神様と向き合い、神様と人格関係を守る存在として創造されたのです。しかも「男と女」に創造されたのです。これは人間とも向き合う関係としてです。そして「彼らに、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地をはうすべてのものを支配させよう。」と被造物を配慮し、祝福を注ぐ役目を与えられたのです。最後に「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ。それは非常によかった。」(31)。神様が創造されたすべてのものを肯定し、承認されたのです。

◎ヨハネの福音書1章の始めは「序言」である。ヨハネは「初めにことばがあった」と書き出している。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」(18)とある。ヨハネがイエス様を「ことば」と呼ぶのも、神を「説き明かす」方という意味が込められているのではないか。「初めに」とは、創世記1章1節の「はじめに神が天と地を創造された」とある「はじめに」と同じなのです。イエス様はこの天地の始まる前にすでにおられ、「神とともにあった」(1)。神のひとり子であられたのです。

その時空を超えた無限の御方が私たちと同じ有限な人となられた(14)。私たちの仲間となり、私たちが味わう悲喜こもごもを味わい尽くし、私たちに代わって神さまに呪われて死んでゆかれたのです。なんと有り難いことでしょう。

生まれることなく、初めからおられた方と、「生まれた」この世界と私たち。この方と関わりのないものや出来事などこの世に一つもない。それが理解できるようにと、私たちも「神によって生まれた」のです(13)。何と幸せなことでしょう。